

# ■岩手県地域公共交通計画(骨子案)

## 現計画に示す将来像・方針等

### ■目指すべき将来像

復興と広大な県土の交流を支え、まちづくりと交通が一体となった持続可能な交通体系の構築

### ■現計画の基本方針・目標

#### 基本方針①:

広大な県土の移動を実現する幹線路線と広域バス路線の維持確保

- 目標①:  
復興まちづくりも見据えた将来的に持続可能な地域公共交通ネットワークの構築
- 目標②:  
住民の日常的な移動を支える広域バス路線の維持
- 目標③:  
バスの運転士の確保による路線の維持

#### 基本方針②:

幹線路線や広域バス路線と地域内公共交通の適切な接続拠点の設定及び接続利便性の向上

- 目標④:  
接続機能の強化による、幹線路線、広域バス路線、地域内公共交通の乗り換えの円滑化

#### 基本方針③:

利用促進による地域公共交通の活性化

- 目標⑤:  
日常的な利用と意識醸成による利用者の増加
- 目標⑥:  
観光資源・大規模行事を活かした利用者の増加
- 目標⑦:  
高齢者や通学性などの利用の増加

## 本県の地域公共交通に係る現状・変化

### 本県を取り巻く情勢

- ・人口減少、少子・高齢化の進行に伴う利用者の減少
- ・医療施設数の減少
- ・社会の変化に対応した県立高等学校の再編の検討
- ・コロナ禍による観光等の需要の落ち込みと回復の遅れ
- ・コロナ禍による生活様式及び移動ニーズの変化（リモートワークの機会等の増加）
- ・物価・燃料費の高騰
- ・復興道路・復興支援道路の全線開通、復興まちづくりの進展
- ・ニューヨークタイムズ紙での盛岡市の紹介、御所野遺跡（一戸町）の世界遺産登録
- ・新型コロナウイルス感染症の5類への移行による社会経済活動の活性化
- ・D X・G Xによる持続可能な社会への関心の高まり

### 地域公共交通を取り巻く情勢

- ・地域交通法の改正（地域公共交通計画策定の努力義務化、地域公共交通計画とバス国庫補助との連動等）
- ・バス補助制度の被災地特例の終了と激変緩和措置の継続
- ・バス補助制度のコロナ特例の実施
- ・改善基準告示の改正に伴う交通事業者における運転士不足の深刻化
- ・利用者減や運転士不足に伴う路線バスの減便・休廃止
- ・AI・ICT等の新技術を活用した地域公共交通分野での取組の進展（MaaS、AI オンデマンドなど）
- ・バスへの交通系 IC カードの導入や、Suica エリアの拡大による利便性の向上と日常的なデータの取得
- ・地域公共交通に係る GTFS※データ化の推進及びデータを活用した方策等の展開
- ・他事業者・他分野間における連携の加速

など

## 本県の地域公共交通に係る課題(時点案)

### 継続的に対応すべき課題

- 移動ニーズに応じた地域公共交通の適切な維持・確保
- 不足する運転士の確保
- バス補助制度の特例措置終了を見据えた持続的な地域公共交通の維持・確保
- 復興まちづくりの進展に応じた地域公共交通の見直し
- 市町村との連携による県民の多様な移動ニーズへの対応
- 誰もが利用しやすい地域公共交通のバリアフリー環境の構築
- 観光・ビジネス等による県内外利用者の移動ニーズへの対応
- 地域公共交通の利用促進に向けた県民の意識醸成

### 新たに対応が必要となる課題

- 人口減少やコロナ禍による地域公共交通利用者数の大幅な減少への対応
- 改善基準告示の改正を踏まえた運転士の確保
- 燃料費高騰等への対応
- AI、自動運転などの新技術や、各種データの有効活用など、D Xの推進による利便性・効率性の向上
- シームレスで利便性の高い利用環境の構築に向けた多様な主体間の連携
- 市町村における地域公共交通計画・利便増進実施計画等の策定支援
- G Xの推進による環境負荷の軽減等や利用促進の展開

※公共交通機関の時刻表とその地理的情報に使用される共通形式

※ 時点案であり、今後、県民・市町村・事業者アンケート等の結果を踏まえて内容を精査する場合があること

次期計画の方向性(案)

■計画の基本方針(時点案)

基本方針①:

広大な県土の移動を実現する広域移動の維持・確保

- ・県民が安全・安心に暮らすことができる生活環境を維持し、生活利便性の維持や定住促進を図るため、鉄道や路線バスをはじめとした、市町村間を跨いで運行する広域的な移動手段の利便性・効率性を向上し、適切に維持・確保する。

基本方針②:

人口減少や利用者需要の変化を踏まえた、持続的で利便性の高い地域公共交通ネットワークの形成

- ・広域的な公共交通と地域内公共交通や、地域公共交通と他の移動サービスなど、異なるサービスがシームレスに繋がる環境を構築し、利便性の高い地域公共交通ネットワークを形成する。

基本方針③:

行政・交通事業者・他分野間の連携や DX・GX の推進による地域公共交通の活性化

- ・国や県、市町村や交通事業者、他分野の主体のそれぞれが相互に連携し、多様なツールの活用などDX・GXの推進を通じて、地域公共交通の利用促進・利便性の向上を推進する。

■施策展開の方向性(時点案)

広域的な公共交通の適切な維持・確保

- ・広域バス路線や鉄道路線の維持・確保
- ・国庫補助等の活用、社会情勢に合わせた県単補助路線や代替交通の維持・確保支援
- ・国や県、市町村、交通事業者等の多様な主体間における具体的な協議の場を引き続き設定 ほか

シームレスで利便性の高い利用環境の構築

- ・広域的な公共交通の接続拠点における環境改善（空間的要素の改善）
- ・交通モード間の乗継の改善（時間的要素の改善）
- ・アナログ・デジタル両面での情報発信の改善・充実（情報的要素の改善） ほか

多様な主体・サービスの連携に伴う地域公共交通の利便性の向上による利用促進

- ・交通事業者間や、観光・教育など他分野間の連携の促進
- ・MaaS、AI デマンドなど、新たな技術の活用による地域の特色を活かした利便性の向上
- ・公共交通担当者・交通事業者に対する勉強会の開催や有識者の派遣 ほか

地域公共交通に対する県民の意識醸成・関心の向上

- ・市町村や企業等と連携したモビリティ・マネジメントの展開
- ・地域公共交通に関するイベント・プロモーション活動に対する支援
- ・市町村における地域公共交通計画・利便増進実施計画等の策定支援 ほか

地域公共交通サービスの安定的な運営基盤の構築

- ・新技術・各種データの活用による事業者の業務改善
- ・事業者の運転士確保に向けた支援
- ・環境負荷の低い車両などの導入に向けた支援 ほか

【参考】次期計画の概要と構成案

表 次期計画の概要

項目	概要
計画期間	2024 年度～2028 年度（R6～R10 年度）
対象区域	岩手県全域
対象とする地域公共交通	広域的な公共交通（鉄道、高速バス、路線バス等）
上位計画・関連計画	上位計画：いわて県民計画（2019～2028） 関連計画：岩手県ふるさと振興総合戦略、都市計画区域マスタープラン、立地適正化計画、みちのく岩手観光立県基本計画、岩手県保健医療計画、新たな県立高等学校再編計画後期計画、三陸鉄道沿線地域等公共交通網形成計画、市町村における地域公共交通計画 等

表 次期計画の構成案

区分	章	項目	概要
本編	第 1 章 計画の概要	計画策定の目的	○策定の背景・目的
		計画の位置づけ	○上位計画・関連計画の関係性など
		計画の期間	○計画の期間
		計画の対象	○対象となる区域 ○対象となる交通モード・拠点
	第 2 章 本県の地域特性・地域公共交通の概況	地域の概況	○地域の特性等（人口推移・分布、人口流動、まちづくり動向、施設立地動向、その他） ○施設整備等の予定や大きな情勢等の変化など
		地域公共交通の概要	○地域公共交通の運行状況 ○地域公共交通の定量的データの整理 ○アンケート結果の概要 ○各市町村の計画の策定状況・取り組みなど ○地域内での移動サービスの提供状況
		上位・関連計画の概要	○いわて県民計画の概要 ○県の関連計画の概要 ○市町村の地域公共交通計画の概要
	第3章 本県の地域公共交通に係る課題	県全体の課題	○県全体での共通する課題 ○広域的な公共交通に関する課題 など
		広域振興圏別の課題	○広域振興圏別の広域的な公共交通に関する課題 ○広域振興圏別の個別課題（地域内公共交通など）の課題
	第4章 計画の基本方針・基本目標	基本方針	○県全体での地域公共交通の目指すべき姿
		基本目標・施策の方向性	○計画期間内に達成すべき事項 ○目標の達成に向けて取り組むべき施策展開の方向性
		地域公共交通ネットワークの将来像	○県全体及び広域振興圏の地域公共交通ネットワークの将来像
		指標・数値目標	○基本目標の達成を確認する定量的指標と数値目標
		地域公共交通確保維持改善事業の必要性	○補助系統の概要及び位置づけ・役割等 ○補助系統の必要性等の整理
	第5章 目標達成に向けた具体施策	施策体系	○施策一覧
		各施策の概要	○施策の内容、実施時期、実施主体 など
	第6章 計画の推進	計画の推進・管理体制	○体制等
		計画の評価・管理方法	○モニタリングの実施時期、会議の開催時期など、スケジュールも含めた具体的な管理方法
別紙	地域公共交通確保維持改善事業に係る運行計画	国庫補助申請に必要な事項等	○国庫補助額の計算等に必要な事項など